Nagoya City University Academic Repository

学位の種類	博士（医学）
報告番号	甲第１５１３号
学位記番号	第１０８４号
氏名	久保田　陽介
授与年月日	平成 28 年 3 月 25 日
学位論文の題名	Effectiveness of a psycho-oncology training program for oncology nurses: A randomized controlled trial （オンコロジーナースに対するサイコオンコロジートレーニングプログラムの効果：無作為化比較試験） Psychooncology, 2015 Oct 9. doi: 10.1002/pon.4000. [Epub ahead of print]
論文審査担当者	主査：　鈴木 貞夫 副査：　早野 順一郎，明智 龍男

論　文　内　容　の　要　旨

背景

多くのがん患者は、身体的苦痛のみならず、精神心理的苦痛を経験している。これらの苦痛は、患者自身の QOL の低下、家族の疲弊など、様々な悪影響をもたらす。看護師は精神心理的苦痛の軽減に貢献することが期待されているが、一般の看護師はもちろん、がん看護の専門性を有する看護師でさえ患者の精神心理的苦痛の評価や対応に困難を感じていることが報告されている。にも関わらず、がん医療に従事する看護師を対象とした、患者の精神心理的苦痛軽減に資するトレーニングは世界的にも報告が少ない。本研究の目的は、がん看護の専門性を有する看護師において、我々が開発した看護師のための精神心理的苦痛のケアに関するトレーニングプログラムが、がん患者の精神心理的苦痛に対応するための自信・知識・態度などの改善をもたらすか否かを検討することである。

方法

本研究のデザインは、層別化、オープン、並行群間、無作為化比較試験である。実施にあたり、名古屋市立大学倫理審査委員会の承認を得た。研究対象者に対して、研究について書面で説明し、文書による同意を得た。研究対象者は、がんに関連する専門看護師（がん看護・精神看護）および認定看護師（化学療法看護・緩和ケア・がん性疼痛看護・乳がん看護・がん放射線療法看護）で、かつ愛知県内で臨床に従事しているものとした。独立した統計家が無作為に対象者を介入群と待機対照群に割り付けした。

介入群に対しては、2 日間、合計 16 時間のがん患者の精神心理的苦痛のケアに関するトレーニングプログラムを実施した。本プログラムは、①がん患者と支持的コミュニケーションを用いて関わることができること、②包括的な評価を用いて危機介入を行い、がん患者の精神心理的苦痛の評価・対応ができること、を達成目標としたもので、具体的には「通常の心理反応」「ケアを要する精神症状」「希死念慮」「せん妄」という４つの精神心理学的苦痛を扱った。プログラムは成人学習理論に則り、グループワーク、ロールプレイなどの教育方法を取り入れた。待機対照群に対しては、介入群と同じアウトカム指標を評価後に、希望があった場合に同じプログラムを提供した。

アウトカム指標の測定は、介入前、及び介入３ヶ月後に行った。主要評価項目は、精神心理的苦痛に対応するための自信・知識の尺度、および態度の評価尺度とした。副次評価項目は、ストレス、燃え尽きとした。自信・知識を尺度する既存の尺度はなかったため、研究グループがデルファイ法を用いて開発した。あわせて、プログラムの主観的な有用性やロールプレイに伴うストレスも評価を行った。

結果

164 名が適格条件を満たし、96 人から研究参加の同意を得た。96 名を、介入群 50 名、待機群 46 名に無作為に割り付けた。介入群と待機対照群では、年齢、性別、職歴、専門性、学歴、がん看護経験年数に明らかな差は認めなかった。介入群のうち、5 名がプログラムに全く参加せず、４名が１日のみ参加した。待機対照群の１名が同意を撤回した。解析は割り付け対象者 96 名全てを対象とする intention-to-treat 解析

にて行った。

その結果、介入群では、待機対照群と比較して、自信に関する４つの下位尺度「通常の心理反応」「ケアを要する精神症状」「希死念慮」「せん妄」、及び知識の合計点が有意に改善した。態度、ストレス、燃え尽きでは有意な差は認めなかった。

プログラムに関しては、52%の参加者がロールプレイによる全般的な負担は強かったと回答し、24%がロールプレイによって過去の患者との辛い思い出が蘇り辛く感じたと報告した。ほぼ全ての対象者がロールプレイは有用であったと回答した。

考察

がん看護の専門性を有する看護師において、我々が開発したサイコオンコロジートレーニングプログラムが精神心理的苦痛に対応するための自信、知識の改善に有用であることが示された。本プログラムの特徴として、看護師のニーズにマッチしていたこと、がん患者に経験しやすい精神的な問題を取り上げたこと、ロールプレイやグループワークなどの成人学習理論に基づいた介入を行ったことなどが上げられ、これらが自信と知識の改善に結びついたことが推測される。

本研究の限界として、真のエンドポイントである患者評価項目を含んでおらず、看護師の自信や知識の改善と患者評価項目の関係が不明確であること、待機対照群と比較することで効果が過大に見積もりされている可能性があることなどが推察された。今後の研究課題として、看護師にこのようなトレーニングを提供することが、がん患者の精神心理的苦痛を実際に軽減しうるかを検証することがあげられる。

結論

本研究では、我々が開発したサイコオンコロジートレーニングプログラムが、専門認定看護師が精神心理的な苦痛を評価・対応する自信、知識の改善に有用であることが示された。（1,990 字）

論文審査の結果の要旨

【目的】看護師は、がん患者の精神心理的苦痛を軽減する役割を担うが、その評価や対応に困難を感じていることが報告されている。本研究の目的は、新たに開発した看護師のための精神心理的苦痛のケアに関するトレーニングプログラムが、がん看護の専門性を有する看護師において、がん患者の精神心理的苦痛を評価し、対応するための能力を促進するか否か検証することである。

【対象および方法】本研究のデザインは、層別化、オープン、並行群間、無作為化比較試験である。実施に際して、名古屋市立大学倫理委員会の承認を得た。愛知県内でがん臨床に従事しているがん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師等を対象とした。介入群には、がん患者の精神心理的苦痛のケアに関するトレーニングプログラムを 2 日間、合計 16 時間実施した。プログラムの中では、「通常の心理反応」「ケアを要する精神症状」「希死念慮」「せん妄」という 4 つの精神心理学的苦痛を扱った。プログラムは成人学習理論の技法を用いて、グループワーク、ロールプレイを教育手段として使用した。待機対照群に対しては、初期評価 3 ヶ月後の評価を行った後、希望があった場合に同じプログラムを提供した。アウトカムの測定は、初期評価及び初期評価 3 ヶ月後の 2 地点で行った。主要評価項目は、精神心理的苦痛に対応するための自信・知識の尺度、および態度の評価尺度とした。副次評価項目は、ストレス、燃え尽きとした。プログラムの主観的な有用性やロールプレイに伴うストレスも評価を行った。

【結果】164 名が包含基準を満たし、同意を得た 96 名を、介入群 50 名、待機群 46 名に無作為に割り付けた。割り付け対象者 96 名全てを対象とする intension-to-treat（ITT）解析を実施した。介入群では、待機群と比較して、自信に関する下位尺度「通常の心理反応」「ケアを要する精神症状」「希死念慮」「せん妄」、及び知識の合計点が有意に改善した。態度、ストレス、燃え尽きでは有意な差は認めなかった。プログラムとロールプレイの有用性やストレスを評価した結果、52%の人がロールプレイによる全般的な負担は強かったと感じ、24%の人がロールプレイによって過去の患者との辛い思い出を経験して辛かったと報告した。その一方で、ほぼ全ての対象者がロールプレイは有用であったと回答した。

【結論】新たに開発したサイコオンコロジートレーニングプログラムが精神心理的苦痛に対応するための自信、知識の改善に有用であることが示された。今後の研究課題として、看護師にこのようなトレーニングを提供することが、がん患者の精神心理的苦痛を実際に軽減しうるかを検証することが必要である。

【審査の内容】約 25 分間のプレゼンテーションの後に、主査の鈴木からは、無作為化比較試験のエビデンスの質が高いのは何故か、なぜ ITT 解析を用いたのか、クロンバックのα係数とは何かなど、主としてデザインを含めた研究方法論の詳細および結果の解釈などに関しての 8 項目の質問を行った。また第一副査の早野教授からは、成人学習理論とはどういった教育方法に基づいたものか、今回はそれをどのように応用したのか、研究対象者の準備状況など、実際の研究実施方法の詳細など 7 項目の質問がなされた。第二副査の明智教授からは、専門領域に関連して、統合失調症の診断と薬物療法戦略、認知症の種類と診断、軽症うつ病に対する治療戦略と生物学的マーカーなど 3 つの質問がなされた。いずれに対しても比較的満足のいく回答が得られ、学位論文の主旨を十分理解していると判断した。本研究は、新たに開発したトレーニングプログラムが、看護師に対して有用であることを示唆したはじめての研究であり、意義の高い研究である。以上をもって本論文の著者には、博士（医学）の称号を与えるに相応しいと判断した。

論文審査担当者　主査　鈴木　貞夫　　副査　早野　順一郎、明智　龍男